

菊陽町生活交通ネットワーク計画（案）

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

菊陽町においては、町を南北に結ぶ公共交通機関がなかったため、住宅地と公共施設を結ぶコミュニティバスとして平成14年度から「菊陽町町内巡回バス（以下「巡回バス」という。）」を提供してきたが、利用人数が伸び悩んでいた。最近、新しい道路の整備が進み、新しい住宅地や商業施設ができるなど町の様子が大きく変わってきたことから、巡回バスを現状に合った運行体系に見直して生活交通としての利便性を高めるため、平成24年度において地域公共交通確保維持改善事業費補助金を活用した調査事業を実施した。

その結果、現在の巡回バス利用者の属性や、商業施設の利用者に地域的特性があることなどが分かったため、車を自由に使えない人の買い物を中心として通院にも配慮した生活利便性の向上を目的として、従来の巡回バスから路線とサービス提供水準を大幅に改善し、地域公共交通確保維持事業を実施することとした。

なお、各システムの必要性については下表のとおりである。

| | 運行予定事業者名 | 系統名 | 路線維持の必要性 |
|---|-----------|-------|--|
| 1 | 産交バス（株） | 中央循環線 | 地域間幹線系統「九州産交バス センター菊陽町役場線」の利用者及び本路線沿線住民のゆめタウン光の森、光の森駅、イオン菊陽店、三里木駅、さんふれあ、菊陽町役場への交通手段及び巡回バス各系統からの乗換対象系統として必要である。 |
| 2 | 産交バス（株） | 東部線 | 地域間幹線系統「九州産交バス センター菊陽町役場線」の利用者及び本路線沿線住民の熊本リハビリテーション病院、菊陽町役場、さんふれあへの交通手段として必要である。 |
| 3 | 産交バス（株） | 南部循環線 | 地域間幹線系統「九州産交バス センター菊陽町役場線」の利用者及び本路線沿線住民の菊陽町役場、イオン菊陽店、さんふれあへの交通手段として必要である。 |
| 4 | 熊本電気鉄道（株） | 北部循環線 | 地域間幹線系統「九州産交バス センター菊陽町役場線」の利用者及び本路線沿線住民の菊陽町役場、さん |

| | | | |
|---|-----------|-----|---|
| | | | ふれあ、原水駅への交通手段として必要である。 |
| 5 | 熊本電気鉄道（株） | 西部線 | 地域間幹線系統「九州産交バス 武蔵ヶ丘線」の利用者及び本路線沿線住民のゆめタウン光の森、さんふれあ、光の森駅への交通手段として必要である。 |

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

巡回バス5路線の年間延べ利用人数目標値を下記のとおりとする。

| 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---------|---------|---------|
| 12,000人 | 14,000人 | 16,000人 |

(2) 事業の効果

巡回バスを維持することにより、高齢者や車を自由に使えない人の日常生活に必要不可欠な移動手段を確保し、外出促進・地域活性化につなげる。

また、地域間幹線系統とフィーダー系統、そしてJRのネットワークが連携することで、広範囲の移動をサポートした効率的な運行体系が実現できる。

3. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運行予定者

- 地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表1」
- 路線図

4. 車両の取得に係る目的・必要性

中央循環線及び東部線、南部循環線は既存路線を見直して大幅にサービス水準を上げた路線であり、当該路線を運行するための車両を手当てすることができないため、新たにノンステップ車両を1台導入する必要がある。

また、これまで事業者の所有する標準的な外観の車両を使用していたこともあり、一般路線バスとの区別がつかないとの声が多くあったことから、巡回バスの認知度向上を目的として導入するものである。

5. 車両の取得に係る定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

巡回バス5路線の年間延べ利用人数目標値を下記のとおりとする。

| 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|---------|---------|---------|
| 12,000人 | 14,000人 | 16,000人 |

(2) 事業の効果

巡回バスを維持することにより、高齢者や車を自由に使えない人の日常生活に必要な移動手段が確保され、外出促進・地域活性化につなげる。

また、地域間幹線系統とフィーダー系統、そしてJRのネットワークが連携することで、効率的な運行体系が実現できる。

購入予定の車両については、主に中央循環線を運行する予定であるが、中央循環線を運行後そのまま東部線及び南部循環線を運行することで、利用者が物理的な乗り換えを必要としない運行を計画するほか、住民の目に触れる機会を増やすことで利用者の増加につながることを期待している。

6. 車両の取得計画の概要

産交バス株式会社により、超低床ノンステップバス「日野 ポンチョ」を購入し、中央循環線、南部循環線、東部線を運行予定。その減価償却費に対し、国庫補助を申請。



写真の外板色、方向幕の文字などは撮影用特別仕様です。